

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	臨床柔整学Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	鈴木 勇也		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として柔道整復学各論の上肢脱臼について理解することを目的とする。 鎖骨、肩関節、肘関節、手関節及び手指部の各脱臼における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等を理解し、臨床の現場で患者に対してインフォームド・コンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	鎖骨周囲の解剖	
2	1	2	鎖骨の脱臼 1	
3	1	2	鎖骨の脱臼 2	
4	1	2	肩部周囲の解剖	
5	1	2	肩関節脱臼 1	
6	1	2	肩関節脱臼 2	
7	1	2	肩関節脱臼 3	
8	1	2	肘部周囲の解剖	
9	1	2	肘関節脱臼 1	
10	1	2	肘関節脱臼 2	
11	1	2	肘関節脱臼 3	
12	1	2	手部手指部の解剖	
13	1	2	手関節、手指関節の脱臼	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂 柔道整復学・実技編:南江堂				
教員について【実務経験有】 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	臨床柔整学IV		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	伊藤 拓		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として柔整理論各論の軟部組織損傷について理解することを目的とする。肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指の各障害における発生機序、治療法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症(神経障害等)の可能性をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	肩関節部の軟部組織損傷1	
2	1	2	肩関節部の軟部組織損傷2	
3	1	2	肩関節部の軟部組織損傷3	
4	1	2	肩関節部の軟部組織損傷4	
5	1	2	肘関節部の軟部組織損傷1	
6	1	2	肘関節部の軟部組織損傷2	
7	1	2	肘関節部の軟部組織損傷3	
8	1	2	前腕部の軟部組織損傷1	
9	1	2	前腕部の軟部組織損傷2	
10	1	2	手関節部の軟部組織損傷1	
11	1	2	手関節部の軟部組織損傷2	
12	1	2	手指部の軟部組織損傷1	
13	1	2	手指部の軟部組織損傷2	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編: 南江堂 柔道整復学・実技編: 南江堂				
教員について【実務経験有】				
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	臨床柔整学Ⅴ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	羽田 哲也		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として整復学各論の下肢骨折について理解することを目的とする。骨盤骨、大腿骨、膝蓋骨、下腿骨、足部・足趾骨の各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	骨盤の骨折	
2	1	2	大腿骨近位部の骨折	
3	1	2	大腿骨骨幹部の骨折	
4	1	2	大腿骨遠位部の骨折	
5	1	2	膝蓋骨骨折	
6	1	2	下腿骨近位部骨折	
7	1	2	下腿骨骨幹部骨折	
8	1	2	中間テスト	
9	1	2	下腿骨遠位部骨折	
10	1	2	足根骨骨折1	
11	1	2	足根骨骨折2	
12	1	2	中足骨骨折、趾骨骨折	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答、解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 臨時試験、授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	臨床柔整学VI		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	小林 耕平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として柔道整復学各論の下肢脱臼について理解することを目的とする。 股関節、膝関節、足関節及び足指部の各脱臼における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等を理解し、臨床の現場で患者に対してインフォームド・コンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	骨盤周囲、股関節の解剖	
2	1	2	股関節の脱臼 1	
3	1	2	股関節の脱臼 2	
4	1	2	大腿部膝関節の解剖	
5	1	2	膝蓋大腿関節脱臼 1	
6	1	2	膝蓋大腿関節脱臼 2	
7	1	2	膝関節脱臼 1	
8	1	2	膝関節脱臼 2	
9	1	2	足部の解剖	
10	1	2	足関節脱臼 1	
11	1	2	足関節脱臼 2	
12	1	2	足趾部の解剖	
13	1	2	足趾の脱臼	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編: 南江堂 柔道整復学・実技編: 南江堂				
教員について【実務経験有】				
担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	臨床柔整学Ⅶ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	伊藤 拓		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として柔整理論各論の軟部組織損傷について理解することを目的とする。股関節、大腿、膝関節、下腿、足関節、足、足趾の各障害における発生機序、治療法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症(神経障害等)の可能性をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	股関節部の軟部組織損傷1	
2	1	2	股関節部の軟部組織損傷2	
3	1	2	大腿部の軟部組織損傷1	
4	1	2	大腿部の軟部組織損傷2	
5	1	2	膝関節部の軟部組織損傷1	
6	1	2	膝関節部の軟部組織損傷2	
7	1	2	膝関節部の軟部組織損傷3	
8	1	2	膝関節部の軟部組織損傷4	
9	1	2	下腿部の軟部組織損傷1	
10	1	2	下腿部の軟部組織損傷2	
11	1	2	足関節部の軟部組織損傷	
12	1	2	足、足趾の軟部組織損傷	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂 柔道整復学・実技編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	臨床柔整学Ⅷ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	天和 航平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として柔整理論各論の軟部組織損傷について理解することを目的とする。顔面、頭部、体幹部の各障害における発生機序、治療法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症(神経障害等)の可能性をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	頭部・顔面部の骨折①	
2	1	2	頭部・顔面部の骨折②	
3	1	2	頭部・顔面部の脱臼	
4	1	2	頭部・顔面部の軟部組織損傷	
5	1	2	頚椎の骨折、脱臼および軟部組織損傷①	
6	1	2	頚椎の骨折、脱臼および軟部組織損傷②	
7	1	2	頚椎の骨折、脱臼および軟部組織損傷③	
8	1	2	胸・腰椎の骨折、脱臼①	
9	1	2	胸・腰椎の骨折、脱臼②	
10	1	2	胸部の骨折および胸・背・腰部の軟部組織損傷①	
11	1	2	胸部の骨折および胸・背・腰部の軟部組織損傷②	
12	1	2	総合演習①	
13	1	2	総合演習②	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明 2)プリント配布				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況(2/3以上の出席) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2024年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名		臨床柔道整復総合学 I		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名		木野田 浩平		講義形式	講義
学習目標と講義概要		柔道整復師として必要な解剖学の知識を身に着けることを目的とする。 人体の構造と機能の知識を身に着けることで、現場に出た際に患者に対して適切な指導管理を行うことができるようになる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	脈管系の解剖①		
2	1	2	脈管系の解剖②		
3	1	2	内臓系の解剖①		
4	1	2	内臓系の解剖②		
5	1	2	内分泌系の解剖①		
6	1	2	内分泌系の解剖②		
7	1	2	神経系の解剖①		
8	1	2	神経系の解剖②		
9	1	2	神経系の解剖③		
10	1	2	感覚器の解剖①		
11	1	2	感覚器の解剖②		
12	1	2	感覚器の解剖③		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 授業内で行う小テスト 4) 授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
解剖学: 医歯薬出版					
教員について【実務経験有】					
(木野田先生) 柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。					

2024年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名		臨床柔道整復総合学Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名		森 俊明		講義形式	講義
学習目標と講義概要		柔道整復師として必要な生理学の知識を身につけることを目的とする。 人体の生理機能の知識を理解させることにより、臨床現場にて診察を進める中で患者の症状に対して多角的に判断ができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	神経の生理1		
2	1	2	神経の生理2		
3	1	2	神経の生理3		
4	1	2	神経の生理4		
5	1	2	運動の生理1		
6	1	2	運動の生理2		
7	1	2	運動の生理3		
8	1	2	感覚の生理1		
9	1	2	感覚の生理2		
10	1	2	感覚の生理3		
11	1	2	内分泌1		
12	1	2	内分泌2		
13	1	2	内分泌3		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験＝80点 2) 考查点＝20点 3) 出席状況(3分の2以上の出席) 考查点＝課題提出(10点)、グループ学習における主体的・対話的な学びの姿勢(10点) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
生理学:南江堂					
教員について【実務経験有】					
接骨院にて約6年の経験がある。					

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	基礎柔整実技 I		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	藤田 実、鈴木 勇也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	上肢の骨折、脱臼の整復法、固定法、注意点などを学び臨床でも通じる技術や知識を習得することを目標とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	鎖骨骨折 整復	
2	1	2	鎖骨骨折 固定	
3	1	2	肩鎖関節脱臼 整復	
4	1	2	肩鎖関節脱臼 固定	
5	1	2	上腕骨外科頸骨折 整復	
6	1	2	上腕骨外科頸骨折 固定	
7	1	2	肩関節前方脱臼 整復	
8	1	2	肩関節前方脱臼 固定	
9	1	2	腱板断裂 検査法	
10	1	2	上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法	
11	1	2	上腕骨骨幹部骨折 固定	
12	1	2	総復習①	
13	1	2	総復習②	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答解説	
合計				
15	15	30		

学習方法

1)実技の教科書、プリントを使用 2)グループでの整復、固定材料の作成、固定や検査等を学ぶ

評価方法

1)単位認定試験 2)出席(2/3以上) 3)授業態度等を考慮する。
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。

教科書

南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版

教員について【実務経験有】

(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	基礎柔整実技Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	藤田 実、鈴木 勇也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復法、固定法、検査法や注意点などを学び臨床でも通じる技術や知識を習得することを目標とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	肘関節後方脱臼 整復	
2	1	2	肘関節後方脱臼 固定	
3	1	2	コーレス骨折 整復・固定①	
4	1	2	コーレス骨折 整復・固定②	
5	1	2	コーレス骨折 整復・固定③	
6	1	2	第5中手骨頸部骨折 整復	
7	1	2	第5中手骨頸部骨折 固定	
8	1	2	第2指PIP関節背側脱臼 整復	
9	1	2	第2指PIP関節背側脱臼 固定	
10	1	2	肘関節内側側副靭帯損傷 固定	
11	1	2	第1指側副靭帯損傷 固定	
12	1	2	総復習①	
13	1	2	総復習②	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答解説	
合計				
15	15	30		

学習方法

1)実技の教科書、プリントを使用 2)グループでの整復、固定材料の作成、固定や検査等を学ぶ。

評価方法

1)単位認定試験 2)出席(2/3以上) 3)授業態度等を考慮する。

「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。

教科書

南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版

教員について【実務経験有】

(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。

(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。

2024年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名		基礎柔整実技Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名		伊藤 拓、木野田 浩平		講義形式	実技
学習目標と講義概要		下肢骨折の診察、固定(下腿骨骨幹部骨折)、体幹骨折の診断、固定(肋骨骨折)、下肢軟損の診察、固定(大腿四頭筋、ハムストリングス、アキレス腱)について適切に行えるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	大腿四頭筋損傷の診察、固定1		
2	1	2	大腿四頭筋損傷の診察、固定2		
3	1	2	ハムストリングス損傷の診察、固定1		
4	1	2	ハムストリングス損傷の診察、固定2		
5	1	2	下腿骨幹部骨折の診察、固定1		
6	1	2	下腿骨幹部骨折の診察、固定2		
7	1	2	下腿骨幹部骨折の診察、固定3		
8	1	2	アキレス腱断裂の診察、固定1		
9	1	2	アキレス腱断裂の診察、固定2		
10	1	2	肋骨骨折の診察、固定1		
11	1	2	肋骨骨折の診察、固定2		
12	1	2	総復習1		
13	1	2	総復習2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法		実技の教科書、プリントを使用し、グループで検査、固定材料の作成、固定等を学ぶ。			
評価方法		単位認定試験、授業態度等を成績に加味する、出席(2/3以上)。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。			
教科書		南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版			
教員について【実務経験有】 (木野田先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整形外科での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	基礎柔整実技Ⅳ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	伊藤 拓、羽田 哲也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	下肢軟損の診察、検査(膝関節側副靭帯損傷、膝関節十字靭帯損傷、膝関節半月板損傷、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯)が適切に行えるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	膝側副靭帯損傷の診察、固定1	
2	1	2	膝側副靭帯損傷の診察、固定2	
3	1	2	膝関節前十字靭帯損傷の診察、固定1	
4	1	2	膝関節前十字靭帯損傷の診察、固定2	
5	1	2	膝関節後十字靭帯損傷の診察	
6	1	2	膝関節半月板損傷の診察、固定1	
7	1	2	膝関節半月板損傷の診察、固定2	
8	1	2	下腿三頭筋損傷1	
9	1	2	下腿三頭筋損傷2	
10	1	2	足関節外側靭帯損傷1	
11	1	2	足関節外側靭帯損傷2	
12	1	2	総まとめ1	
13	1	2	総まとめ2	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)実技の教科書、プリントを使用 2)グループでの整復、固定材料の作成、固定や検査等を学ぶ				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席(2/3以上) 3)授業態度等を考慮する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版				
教員について【実務経験有】				
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	基礎柔整実技V		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	天和 航平、鈴木 勇也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	柔道整復師が臨床現場でよく遭遇する上肢と下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序および症状について理解させ、その診察から固定までの技術について習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼 診察および固定 1	
2	1	2	鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼 診察および固定 2	
3	1	2	肩関節脱臼 診察および固定	
4	1	2	肘関節脱臼 診察および固定	
5	1	2	コーレス骨折 診察および固定 1	
6	1	2	コーレス骨折 診察および固定 2	
7	1	2	膝内側側副靭帯損傷 診察および固定	
8	1	2	アキレス腱断裂 診察および固定	
9	1	2	足関節捻挫 診察および固定	
10	1	2	総合演習 1	
11	1	2	総合演習 2	
12	1	2	総合演習 3	
13	1	2	総合演習 4	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明 2) 実技実習				
評価方法				
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条」並びに「単位認定・進級判定要領第1項」に準ずる。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
包帯固定学 : 南江堂 柔道整復学 実技編 : 南江堂 解剖学 : 医歯薬出版				
教員について【実務経験有】				
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。 (天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	応用実技Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	小林 耕平、森 俊明		講義形式	実技
学習目標と講義概要	種目別の外傷予防について、起こりやすい損傷とそのメカニズムとトレーニングについて適切に行えるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	ストレッチ(スタティックストレッチ)	
2	1	2	ストレッチ(バリエーションストレッチ)	
3	1	2	ムーブメントプレパレーション 1	
4	1	2	ムーブメントプレパレーション 2	
5	1	2	ブラジル体操・ストレッチボール	
6	1	2	肩部の外傷予防(柔道) 腱板トレーニング・セラバンド	
7	1	2	外傷予防メニュー作成	
8	1	2	メニュー発表 1	
9	1	2	メニュー発表 2	
10	1	2	肩部・体幹の外傷予防(柔道・水泳) 手技、ストレッチ 1	
11	1	2	肩部・体幹の外傷予防(柔道・水泳) 手技、ストレッチ 2	
12	1	2	膝関節・足関節の外傷予防(バスケットボール・サッカー・成長期) 手技、ストレッチ 1	
13	1	2	膝関節・足関節の外傷予防(バスケットボール・サッカー・成長期) 手技、ストレッチ 2	
14	1	2	高齢者の外傷予防 1 みんなの体操・ラジオ体操第1	
15	1	2	高齢者の外傷予防 1 みんなの体操・ラジオ体操第2	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明 2) 実技実習				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況 3) 授業態度(服装・身だしなみ含む) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
競技者の外傷予防: 医歯薬出版株式会社				
教員について【実務経験有】 (森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上接骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2024年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名		画像評価実技 I	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		診療放射線技師および工学博士	使用教室	第2実習室
教員名		福士 政広	講義形式	実技
学習目標と講義概要		柔道整復師としての業務に従事する際の画像による他覚的所見の有用性について理解させることを目的とする。単純X線およびMRIによる画像の特性および対象となる外傷について理解させ、その読影技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	医用画像を理解するために必要な歴史と装置の概要について学習する。	
2	1	2	造影剤の種類と作用およびX線画像の概要について学習する。	
3	1	2	X線の発生原理と発生装置の概要について学習する。	
4	1	2	X線画像・上肢(上肢帯・肩関節・上腕)検査と臨床画像の見方について学習する。	
5	1	2	X線画像・上肢(肘関節・前腕)検査と臨床画像の見方について学習する。	
6	1	2	X線画像・上肢(手関節・手部・手指)検査と臨床画像の見方について学習する。	
7	1	2	X線画像・下肢(下腿・足関節)検査と臨床画像の見方について学習する。	
8	1	2	X線画像・下肢(足部・足指)検査と臨床画像の見方について学習する。	
9	1	2	X線画像・脊柱・肋骨・頭部・顔面の検査と臨床画像の見方について学習する。	
10	1	2	X線CT画像検査と臨床画像の見方について学習する。	
11	1	2	MRI画像検査と臨床画像の見方について学習する。	
12	1	2	US画像診断検査と臨床画像の見方について学習する。	
13	1	2	核医学画像検査と臨床画像の見方について学習する。	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明 2) 実技実習				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況 3) 授業態度(服装・身だしなみ含む)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
施術の適応と医用画像の理解: 南江堂				
教員について【実務経験有】 診療放射線技師免許、医療福祉工学博士の学位を有し、病院での実務経験の他、大学教授として大学での講義や、他の医療系専門学校での教育経験を活かし授業を行う。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	画像評価実技Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2実習室
教員名	鈴木 勇也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	柔道整復師の診察の補助として活用すること認められている超音波画像観察断置を用いて超音波画像観察を習得し臨床現場に出た際に、柔道整復術が適用されるかどうか鑑別ができるようになることを目的とする。各部位ごとの解剖学(筋骨格系、脈管神経系)を復習しつつ触察をし、学生自身が頭でイメージしているものと画像が一致することができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	柔道整復師と超音波画像観察について 1	
2	1	2	柔道整復師と超音波画像観察について 2	
3	1	2	肩部のエコー観察 1	
4	1	2	肩部のエコー観察 2	
5	1	2	肘部のエコー観察 1	
6	1	2	肘部のエコー観察 2	
7	1	2	手部・手指部のエコー観察	
8	1	2	膝部のエコー観察 1	
9	1	2	膝部のエコー観察 2	
10	1	2	下腿部のエコー観察	
11	1	2	足部のエコー観察 1	
12	1	2	足部のエコー観察 2	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明 2)資料配布 3)実技実習				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況 3)授業態度(服装・身だしなみ含む) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
施術の適応と医用画像の理解:南山堂				
教員について【実務経験有】 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。				

2024年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名			臨床実習Ⅱ	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	臨床実習室
教員名			伊藤 拓、羽田 哲也	講義形式	実習
学習目標と講義概要			柔道整復師として、様々な臨床の現場において評価法、患者対応法などができるようになることを目的とする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	手技療法の注意事項(禁忌)		
2	1	2	患者に対する医療面接(既往歴・現病歴等)		
3	1	2	手技療法の説明と同意(効果・過程・経過)		
4	1	2	手技療法の基本法		
5	1	2	手技療法の基本法		
6	1	2	腰部のアプローチ		
7	1	2	背部・腰部アプローチ		
8	1	2	背部・腰部アプローチ		
9	0.5	1	骨盤・股関節のアプローチ		
10	1	2	骨盤・股関節のアプローチ		
11	1	2	肘関節・手関節のアプローチ		
12	1	2	肘関節・手関節のアプローチ		
13	1	2	肩関節・肘関節のアプローチ		
14	1	2	肩関節・肘関節のアプローチ		
15	1	2	膝関節・足関節のアプローチ		
16	1	2	膝関節・足関節のアプローチ		
17	1	2	頸部のアプローチ		
18	1	2	頸部のアプローチ		
19	1	2	体全体を通してのアプローチ		
20	1	2	体全体を通してのアプローチ		
21	1	2	総まとめ		
22	1	2	単位認定試験		
23	1	2	解答・説明・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1) 板書及び説明 2) 実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
包帯固定学 : 南江堂 柔道整復学 実技編 : 南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (伊藤先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2024年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名		臨床実習Ⅲ		履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	臨床実習室
教員名		伊藤 拓、羽田 哲也		講義形式	実習
学習目標と講義概要		柔道整復師としての心得や様々な臨床の現場において病態評価や評価に基づいた施術計画などが立てられるようになることを目的とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	柔道整復師とは(目的)		
2	1	2	柔道整復師の業務範囲		
3	1	2	柔道整復師の心得と倫理		
4	1	2	診察		
5	1	2	痛みのメカニズム		
6	1	2	患者への評価		
7	1	2	治療法(冷却・固定等)		
8	1	2	外傷予防		
9	1	2	応急手当		
10	1	2	物理療法		
11	1	2	物理療法		
12	1	2	温熱療法		
13	1	2	温熱療法		
14	1	2	運動療法		
15	1	2	運動療法		
16	1	2	その他の治療方法		
17	1	2	その他の治療方法		
18	1	2	医療事故と医療過誤・ヒヤリハット		
19	1	2	リスク管理		
20	1	2	医療事故における患者への対応		
21	1	2	総まとめ1		
22	1	2	総まとめ2		
23	0.5	1	総まとめ3		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2024年度 授業要項

区分	応用分野		履修学年/昼夜別	第2学年/昼
科目名	職業教育Ⅱ		履修単位/時間	1単位/15時間
教員資格	実務を通じて教育経験がある者		使用教室	第2柔整普通教室他
教員名	齋藤 貴司 大野 政明		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師の責務とそれを果たすために必要な能力について理解し、職業人として自立できる素養を身に付けることを目的とする。 具体的には、柔道整復師に求められる知識や技術、そして倫理観について理解を深め、職業人として求められる能力について説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	企業来校型現場学習会1	
2	1	2	企業来校型現場学習会2	
3	1	2	キャリア教育セミナー1	
4	1	2	キャリア教育セミナー2	
5	1	2	企業来校型現場学習会3	
6	1	2	企業来校型現場学習会4	
7	1	2	キャリア教育セミナー3	
8	0.5	1	企業来校型現場学習会5	
合計				
8	7.5	15		
学習方法 1)板書及び説明、解説 2)資料配付				
評価方法 授業への主体的な参加の度合いおよび提出物の完成度で評価を行う。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書等 資料配布				
教員について【実務経験有】 (大野先生)鍼灸接骨院および鍼灸柔整専門学校における実務経験を生かし授業を展開する。				